

2024年秋期の県内植木市場における取引動向

愛知県植木センターでは1986年から県内の植木市場において、主に地元から出荷される緑化樹木を中心に21品目（一般植木、株・玉物、生垣用樹）の取引量を春期（2月～4月）と秋期（10月～11月）に調査しております。また、2008年からは近年市場でよく見られる10品目を追加して調査しております。今回は2024年秋期の取引動向の概要について紹介します。

1 全体取引量（追加樹種を含まず）〔図－1〕

近年の全体取引量は、2010年以降減少傾向が続き、今期も前年同期から減少しました。
今期の全体取引量は約4.2万本で、前年同期（約4.3万本）より約0.1万本減少しました。
用途別では、一般植木は対前年同期比87.5%、株・玉物は104.7%、生垣用樹は100.1%で、全体では97.2%となりました。

2 用途別の取引動向（追加樹種を含まず）〔図－1、図－2〕

(1) 一般植木（12品目）

一般植木（自然形・仕立物）の取引量は約1.3万本で、前年同期より（約1.5万本）より約0.2万本減少しました。

自然形では、キンモクセイ、カエデ類が好調で、ツバキ、カシ類、ヒバ類は減少しました。

また、ヒバ類は前年同期は好調でしたが、今期は大きく減少しました。

仕立物では、クロマツ、イヌツゲが増加したものの、イヌマキ、ウバメガシの取引数量は低調のままです。

(2) 株・玉物（5品目）

株・玉物の取引量は約1.5万本で、前年同期（約1.4万本）より約0.1万本増加しました。

全体的にどの樹種も取引量が少なく、株・玉物の大半を占めるサツキ、イヌツゲ、ツツジ類の中で、サツキは増加し、イヌツゲ、ツツジ類がともに減少しました。

(3) 生垣用樹（4品目）

生垣用樹の取引量は約1.4万本で、前年同期（約1.4万本）とほぼ同量でした。

生垣の主要樹種であるサザンカ、マサキは減少傾向でイヌマキ、カイヅカイブキは増加しました。

3 調査追加樹種（10品目）を含む調査結果〔図－3、表－1〕

追加樹種を含めた全体取引量は、2010年以降減少傾向が続き、2016年には増加に転じたものの、翌年から減少傾向となりました。今期は前年同期（約6.6万本）から増加し、7.8万本となり、全体的には取引量がやや復活し持ちなおしています。

追加樹種を含めた取引上位10品目では、従来からオタフクナンテン、サツキ、サザンカが上位を占めています。

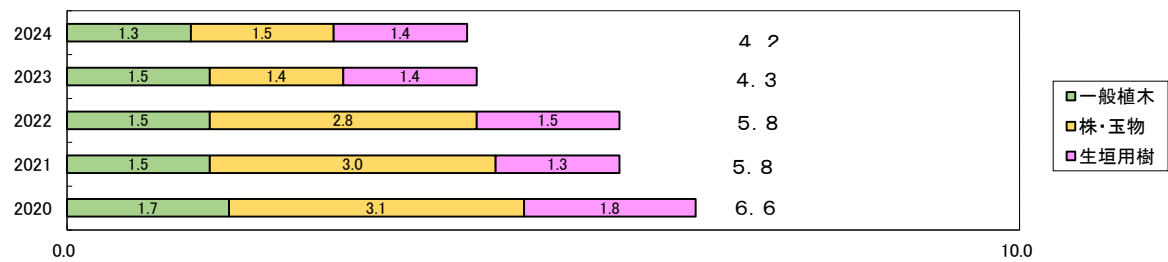
今期は、シマトネリコ、ソヨゴ、ドウダンツツジが大幅に増加して順位を上げ、一方、ツツジ類、キンモクセイ、ヤマボウシが減少し、順位を落しました。

調査市場

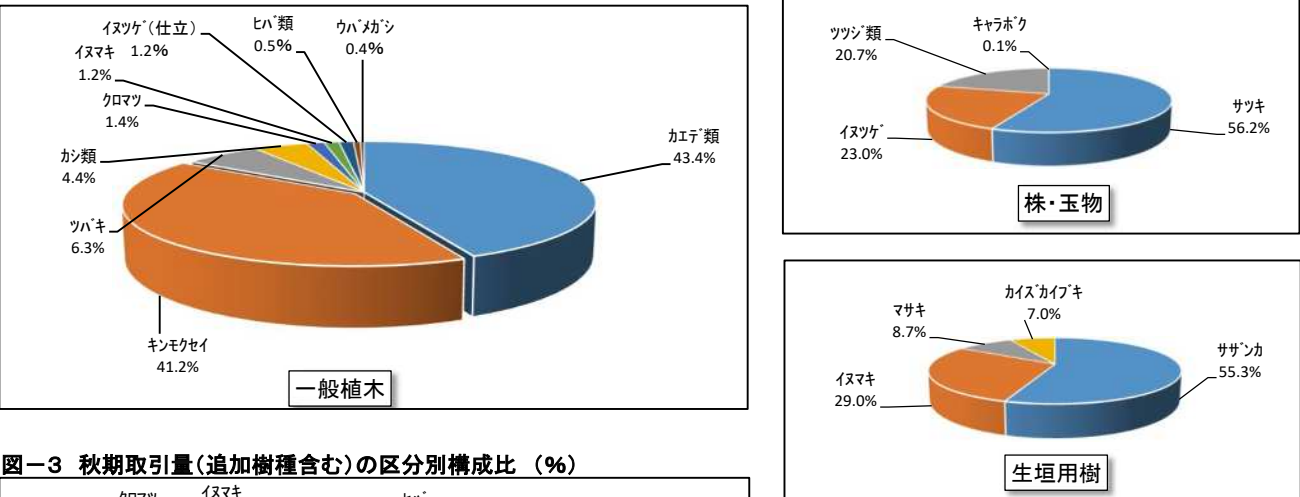
農事組合法人 井堀植木生産組合（稲沢市井堀江西町）

矢合植木市場株式会社（稲沢市矢合町）

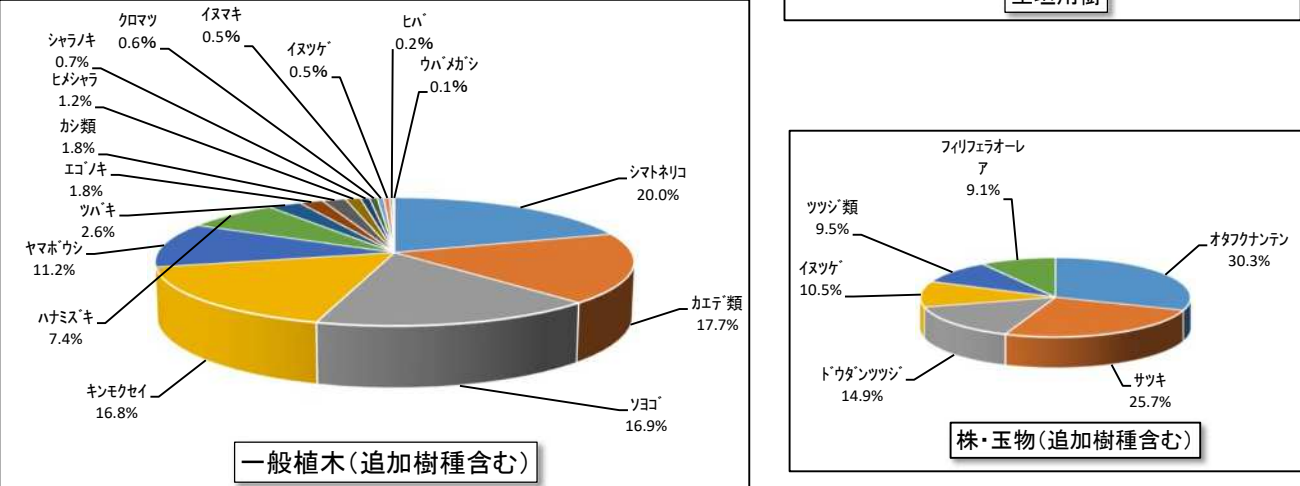
図一 秋期取引量の推移（単位:万本）



図二 秋期取引量の区分別構成比（％）



図三 秋期取引量(追加樹種含む)の区分別構成比（％）



表一 秋期取引量上位10品目(追加樹種含む)の動き

順位	2022年			2023年			2024年		
	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比	品名	区分	前期比
1	サツキ	株	...	オタフクナンテン	株	...	オタフクナンテン	株	...
2	オタフクナンテン	株	↘	サザンカ	生	...	サツキ	株	↗
3	サザンカ	生	...	サツキ	株	↓	サザンカ	生	...
4	ツツジ類	株	...	キンモクセイ	—	...	シマトネリコ	—	↑
5	キンモクセイ	—	...	カエデ類	—	...	カエデ類	—	↗
6	イヌツゲ	株	↑	ヤマボウシ	—	↑	ソヨゴ	—	↑
7	カエデ類	—	...	ツツジ類	株	↓	キンモクセイ	—	...
8	シマトネリコ	—	↓	イヌツゲ	株	↘	ドウダンツツジ	株	↑
9	ドウダンツツジ	株	↓	イヌマキ	生	↗	ヤマボウシ	—	...
10	イヌマキ	生	...	シマトネリコ	—	↘	イヌマキ	生	↗

前期比 ... : ±20%未満 ↗ : +20%以上40%未満 ↘ : -20%以上40%未満
 ↑ : +40%以上 ↓ : -40%以上 — : データなし
区分 — : 一般植木 株 : 株・玉物 生 : 生垣用樹